

- 一連の地震活動は北西-南東走向の断層面上で発生.
- 震央は約1.5kmの長さで分布し、メカニズム解節面走向および傾斜と非常に調和的 (図 (a) (c)).
- 1/27のMw4.0と3.9のイベントは、それぞれ地震活動域の下限および中央で発生 (図 (b)).
- 活動域は北西および南東方向に拡大 (図 (a)、(b))

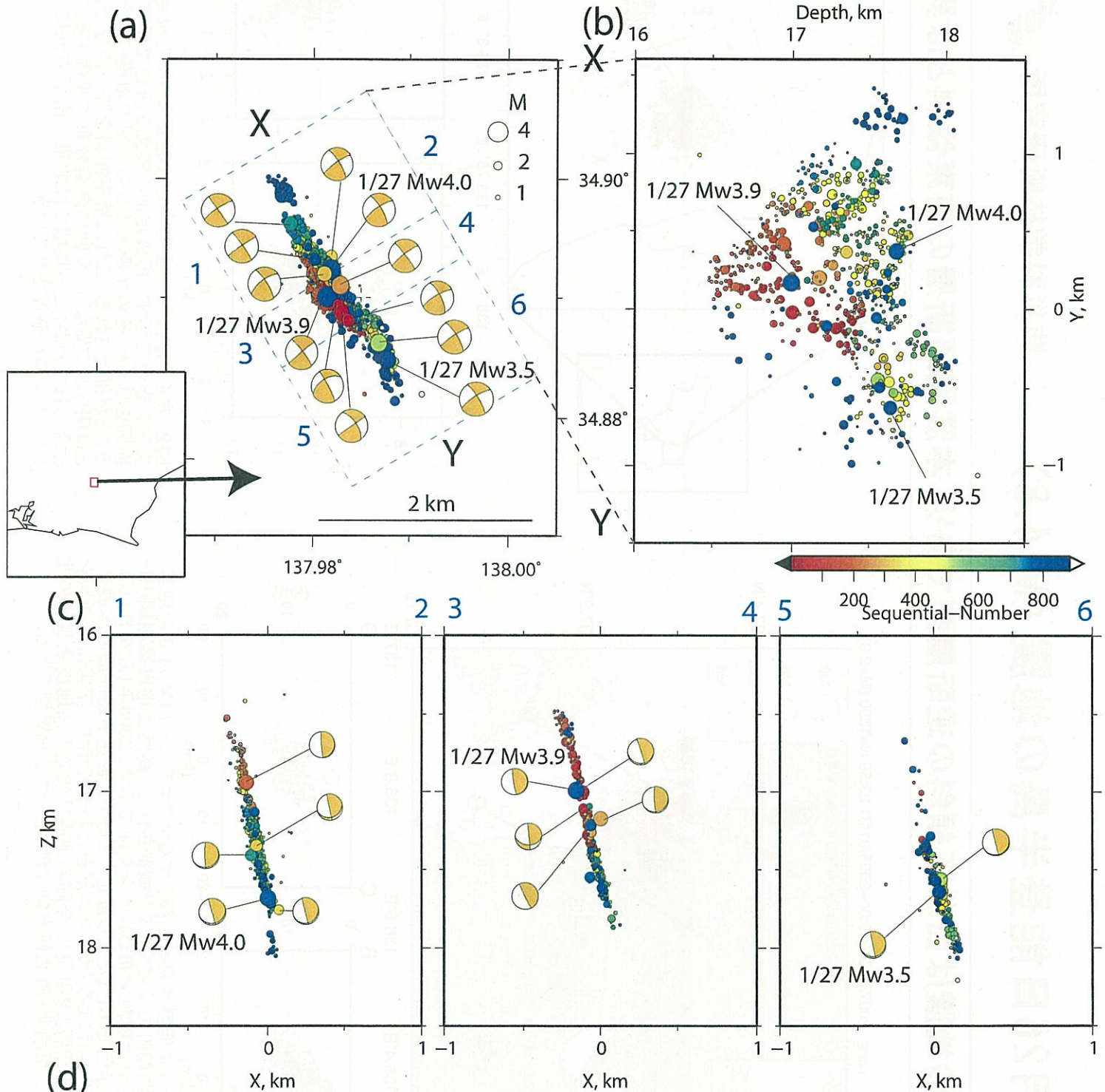


図 (a) hypoDD アルゴリズムを用いて再決定された震央分布 (2007年11月12日~2008年1月28日). 再決定には、検出走時 (自動処理も含む) から得られた走時差データに加えて、波形相互相関処理によって得られたより高精度な走時差データも使用した. 本解析では、相関係数0.80以上の走時差ペアのみを使用した. 防災科研F-netによって決定されたモーメントテンソル解も示す. (b)断層走向に沿った断面 (X-Y断面) に投影した、地震深さ分布. プロットカラーは地震のSequential numberを表す (大きなSequential numberほど、より後で発生した地震を表す). (c)断層走向に直交する断面 (1-2, 3-4, 5-6断面) に投影した地震深さ分布. (d)M-T図